

久慈病院広報

発行日：平成20年1月7日（金） 第8号

新年のごあいさつ



久慈病院長 阿部 正



新年あけましておめでとうございます。大晦日は悪天候でしたが、全般的に平穏なお年越でした。ただ、久慈病院は、年末年始も大繁盛でした。お産も10数件、血液透析もフル回転、救急センター外来も毎日100人以上の患者さんが押し寄せました。特に1月2日は、176人と普段の休日の3倍の患者数で当番医も救急センターナースも事務もてんてこまい、患者さんも待ち時間等で大変だったと聞いております。何しろ年末年始6日間の総患者数は、727人で県立病院の中で久慈病院が最高だったんですから。本当に当番の職員の皆さんご苦労様でした。待たされた患者さんも大変だったと思います。そのうち緊急手術は帝王切開1件のみで致命的な重症患者さんがいなかったことは幸いです。

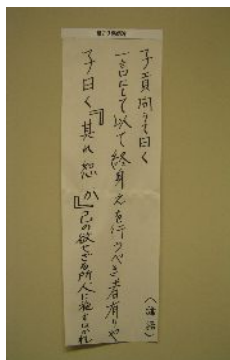
昨年は、久慈病院にとって医療事故、循環器科等常勤医師の減少、臨床研修医の採用人数3人（過去最低）など余りいい年ではありませんでした。その中で6月の第21回東北救急医学会（総会長阿部 正）がスタッフの協力の下、成功裡に終了しましたし、来年度の臨床研修医の採用予定者が6人と倍増したことなどいいニュースもありました。

今年は、岩手医大や中央病院などの多くの急性期病院で導入している入院医療費の一部包括化（DPC）が久慈病院でも始まります。簡単に言えば、今までは検査、点滴、薬等がかかった分の医療費支払いでしたが（出来高払い）、DPCは入院の病名によつてほしい医療費が決まってくるもの（包括払

い）です。一昨年あたりから、入院期間がどんどん短縮しているのはその準備のためです。DPCについては、始まる前に詳しく説明する予定です。IT化も避けては通れません。県立病院では昨年以降磐井病院を皮切りにリニューアルする大きな病院には電子カルテが導入されています。花巻・北上統合病院もそうです。さらに平成21年6月に久慈病院、次いで中央病院でもカルテが電子化されます。電子カルテを導入するには現存のシステムも今から変えていかなければなりません。すでにその準備は始まっています。すなわちこの2年で病院のシステムが大きく変わるといえることです。患者さんにとつてはピンとこないかもしれませんが、広報や掲示物でこれから少しずつ説明していきたいと考えています。新システムへの切り替えの時にはスタッフも大変ですが、患者さんにも待ち時間等でご迷惑をおかけすることがあると思います。ご理解とご協力をお願いいたします。

また、この1月から今まで院内処方を受けていたほとんどの患者さんに院外処方へ切り替えていただいております。医師や薬剤師の説明のほか詳しい説明文を配布しております。院外処方せんに切り替えることの意義をご理解いただきご協力をお願いいたします。

本年が皆様にとって、良い年でありますことを祈念し、久慈病院が皆様の信頼のもとに適正な医療を提供することをお約束して新年のご挨拶とさせていただきます。



仕事はじめ式のあいさつで論語の中から引用した「恕」について語る院長



当院は、岩手県立病院の基本理念「県下にあまねく良質な医療の均てんを」にのっとり、高度で良質な医療を提供し、患者さんとのふれあいに満ちた信頼される病院をめざします。